

足立区 I C T 教育推進の基本方針

(令和 4 年度修正版)

令和 3 年 2 月改訂

足立区教育委員会

教育指導部学校 I C T 推進担当課

目 次

修正の趣旨	4
第1章 基本方針の概要	
1 基本方針改定の主旨	6
2 基本方針の位置づけと構成	7
3 進行管理と見直し	8
4 計画期間	8
5 施策体系図	9
第2章 実施計画	
柱1 学力の定着	
1 めざすべき姿	12
2 現状と課題	12
3 実施する施策	
（1）わかりやすい授業づくり	13
（2）児童・生徒の個に応じた指導	15
柱2 課題を解決していく力の育成	
1 めざすべき姿	17
2 現状と課題	17
3 実施する施策	
（1）情報を活用した学びの推進	18
（2）他者との協働による学びの推進	19
柱3 場所を選ばない学びの環境の実現	
1 めざすべき姿	20
2 現状と課題	
（1）不適切なインターネット利用や目の健康リスクへの懸念	20
（2）家庭の通信環境に合わせたタブレット端末の貸与	20
3 実施する施策	
（1）児童・生徒の自覚やインターネットモラルの育成	21
（2）児童・生徒の目の健康の保持	21
（3）家庭と学校との通信を用いたICT活用	22
指標一覧	24

第3章 参考資料

- 1 発達段階に応じて求められる情報活用能力・・・・・・・・・・ 29
児童・生徒がICTを活用するに当たって身につけさせたい操作スキルや思考力
態度などを、区独自に発達段階に応じてまとめました。
- 2 令和6年度までの授業モデル・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
足立スタンダードの授業の流れにICTの活用を組み込んだ区独自のモデルです。
- 3 足立スタンダードをもとにしたアプリケーション活用例・・ 33
P.31の授業モデルを基に、活用するアプリケーションを授業の場面ごとにまと
めました。
- 4 ICT活用状況アンケート項目・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
ICTの活用状況をモニタリングして教員支援につなげると共に、この基本方針
で用いる各種指標を補完するため、毎年度教員向けに実施する区独自のアンケート
項目です。

修正の趣旨

1 修正の趣旨

令和３年度に、児童・生徒一人一台端末の整備が完了し、家庭への持ち帰りでの活用や新たなデジタル教材の導入が進んだことから、現状に即した基本方針への一部修正を行いました。

2 今回の主な修正内容

- (１) 学校ＩＣＴ活用促進協議会からの意見による修正
- (２) 現状に即した内容への修正
 - ・ 校内の活用から持ち帰りでの活用に進展
 - ・ 新たなデジタル教材の導入
- (３) その他、新たな指標の追加

3 修正箇所一覧

頁	概要	内容
P9	「施策体系図」の修正	新たな指標の追加に伴う体系図の修正
P12	「現状と課題」の修正	活動指標の変更に伴う教員の活用状況の現状に関する記載の修正及びＡＩドリル・デジタル教科書の導入に伴う記載の修正
P13	「活動指標」の変更	教員の活用状況を測ることができる指標に変更
P15	「実施内容」の修正	ＡＩドリルの導入に伴う記載の修正
P15	「活動指標」の変更	新たなデジタル教材の導入に伴う指標の変更
P17	「現状と課題」の修正	児童・生徒一人一台端末の整備に伴う記載の修正
P20	「現状と課題」の削除	通信費を公費負担とするため、財源等に関する記述の削除
P21	「実施内容」及び「成果指標」、「活動指標」の追加	家庭でのＩＣＴ活用に伴う情報モラル教育に関する記載の追加
P22	「実施する施策」の修正	「C4th Home&School」の記載を修正
P22	「実施する施策」の削除	通信費を公費負担とするため、財源等に関する記述の削除
P22 P23	「実施内容」及び「成果指標」、「活動指標」の追加	家庭へのタブレット端末持ち帰りに関する記載の追加

第 1 章 基本方針の概要

1 基本方針改定の主旨

(1) ICT教育環境整備方針の転換

令和元年度からスタートした区のICT教育環境整備の考え方は、まずは教員用タブレット端末を整備して授業での活用スキルの熟度を上げていくことを優先し、児童・生徒が日常的に活用できる端末の整備は数年かけて段階的に行っていくというものでした。しかし、国がGIGAスクール構想を一気に前倒ししたことに伴い、区も従来の方針を転換し、児童・生徒一人一台のタブレット端末を令和3年度の夏から秋にかけて順次各校に整備していくこととしました。

(2) タブレット端末一人一台の環境を活かして

タブレット端末一人一台という新しい環境を活用し、思考や行動の土台となる「**基本的に身につけておきたい学力**」の定着と、これからの社会を生き抜いていくために必要と言われている「**自ら情報を収集・整理・分析して課題を見つけ、多様な他者と協働しながら課題を解決する力**」を育成することを目標において基本方針を改定します。

① 「基本的に身につけておきたい学力」の定着

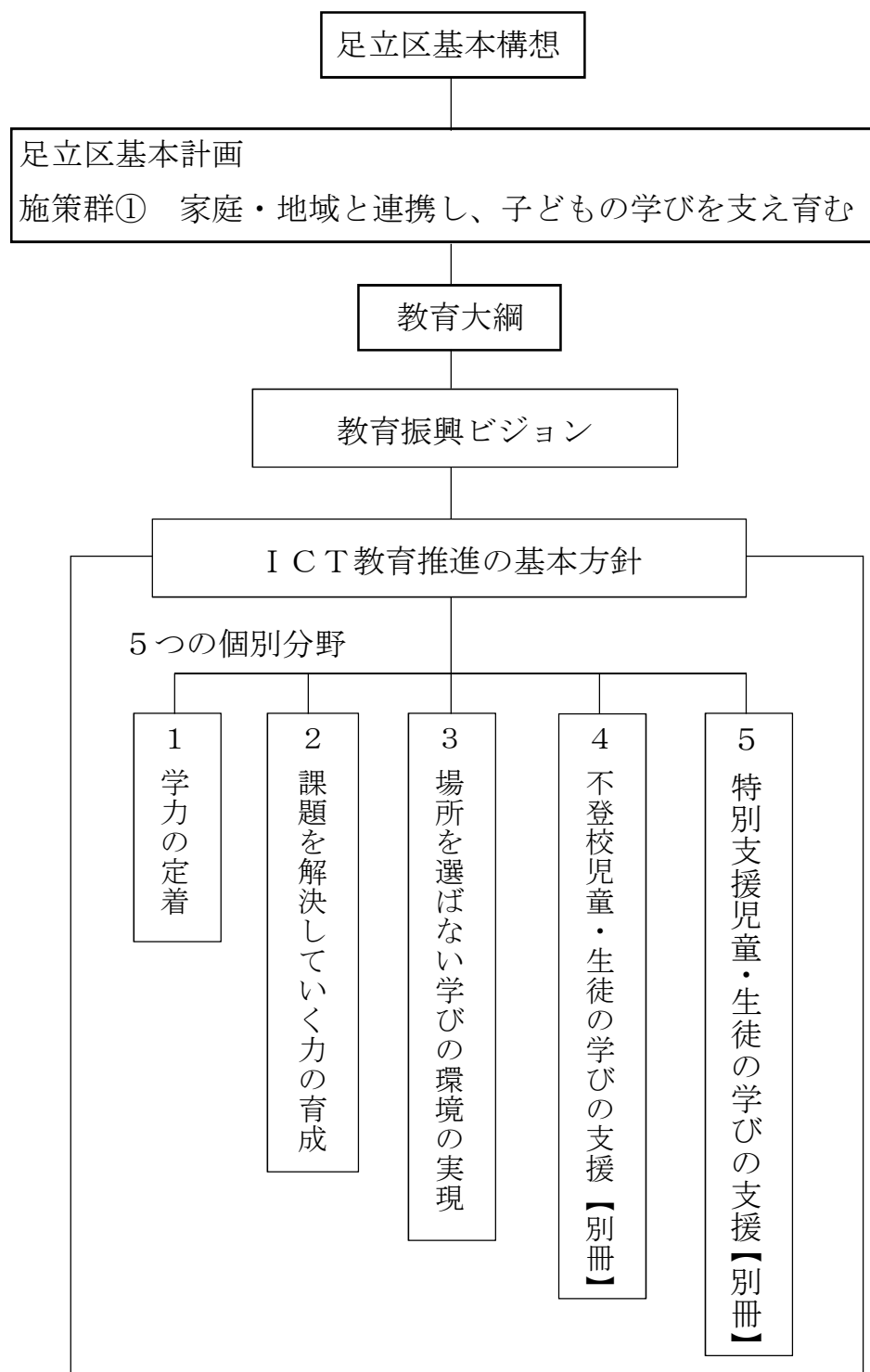
タブレット端末を授業改善のツール、個別最適の学びのツールとして活用し、**わかりやすい授業**の実現と児童・生徒の**個に応じた指導**を通じて、**個々の児童・生徒の学力の底上げ**を図ります。

② 「自ら情報を収集・整理して課題を見つけ、多様な他者と協働しながら課題を解決する力」の育成

タブレット端末を情報収集・整理のツール、他者とのコミュニケーションツールとして活用し、**インターネット等から情報を集めて整理できる力、グループやペア活動で積極的に発言したり意見を出し合ったりすることができる力**の育成を図ります。

2 基本方針の位置づけと構成

I C T教育推進の基本方針を「教育振興ビジョン」の下に位置付けると共に、5つの個別分野を設けてそれぞれの実施計画を包含する構成とします。



3 進行管理と見直し

5つの個別分野ごとに実施計画をまとめます。

各実施計画には、P D C Aサイクルに基づいて着実に取り組みを進行管理するための具体的な指標（成果指標・活動指標）を設定します。

各指標の進捗評価は、外部有識者等で構成する足立区学校 I C T活用促進協議会等で毎年度行い、結果を公表すると共に適宜取り組み内容や指標の見直しを行っていきます。

4 計画期間

令和3年度から令和6年度とします。

5 施策体系図

目 標	① 「基本的に身につけておきたい学力」の定着
	② 「自ら情報を収集・整理・分析して課題を見つけ、多様な他者と協働して課題を解決する力」の育成

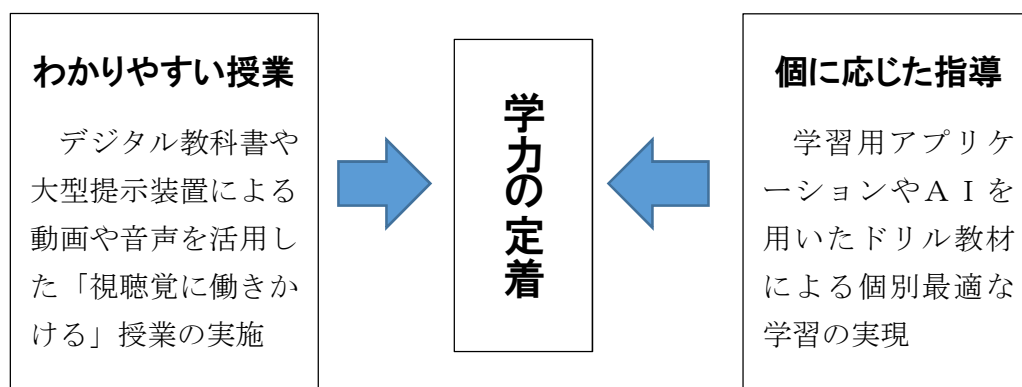


第 2 章 実施計画

柱1 学力の定着

1 めざすべき姿

一人ひとりの児童・生徒に学力を定着させていくためには、「わかりやすい授業」と「児童・生徒の個に応じた指導」の両面からのアプローチが必要です。足立スタンダードに基づく授業の中にデジタル教材やICT機器を効果的に取り入れ、よりわかりやすい授業を実現していくとともに、学習用アプリケーションやAIを用いたドリル教材などを活用し、個々の児童・生徒の学習進度に応じた最適な学習や補習の実現をめざします。



2 現状と課題

足立スタンダードに基づく授業スタイルの実践は概ね定着してきており、9割以上の教員が教員用タブレット端末を活用して授業を実施しています。さらなる活用を促すために、新任者や転任者、授業活用に不安を抱える一部の教員のスキルアップや意識改革を図る必要があります。

また、毎年度の区学力調査結果の分析に基づき、教員による日々の補習や民間事業者を活用した補習事業を実施していますが、そこに学習用アプリケーション、令和4年度に導入したAIを用いたドリル教材やデジタル教科書が加わり、さらに個別最適な学びの実現が期待できます。

3 実施する施策

(1) わかりやすい授業づくり

先行している他自治体の事例では、授業の組み立てが不十分だった場合、教員が授業でICTを多用しても、児童・生徒の理解や学習意欲に結びついていないケースが多く見られます。足立区では、足立スタンダードに基づく授業スタイルを徹底し、その中にICTを効果的に組み込む（P.14、P.31、P.33 参照）ことで、誰にとってもわかりやすい授業を実現していきます。

☆実施内容

現在、足立スタンダードには既に教員がICTを活用する場面は組み込まれています。令和2年度中にはここに「インターネット検索による情報収集」や「意見発表の際のプレゼン機能の活用」など、児童・生徒がICTを活用する場面を組み込み（P.14、P.31、P.33 参照）、令和3年度から全校への横展開を図っています。

教員向け研修、ICT支援員によるフォロー、教育指導課指導主事や教科指導専門員による指導・助言を通じて横展開を推進すると共に、授業の中で得られた知見も活かし、足立スタンダードの更なるブラッシュアップも並行して進めていきます。

成果指標	令和元年度末 現状値	令和3年度末 現状値	令和6年度末 目標
「学校の授業はわかる」に肯定的に回答した児童・生徒の割合	小 87.8%	小 88.2%	小 90%
	中 67.4%	中 68.1%	中 80%

※ 足立区学力定着に関する総合調査で「学校の授業はわかる」に肯定的に回答した児童（2～6年生）・生徒（全学年）の割合

活動指標	令和元年度末 現状値	令和3年度末 現状値	令和6年度末 目標
教員用タブレット端末等を使用して授業を実施した教員の割合	小 ー	小 94.3%	小 100%
	中 ー	中 89.5%	中 100%

※ ICT活用状況アンケート（P.35）で、「教員用タブレット端末や大型ディスプレイを使用して授業を実施した頻度」に週5時間以上実施した教員（小：クラス担任、中：5教科担当）の割合

令和3年度末現状値は、同じ質問項目に対し、小学校は週3回以上（クラス担任）、中学校は週1回以上（5教科担当）実施した教員の割合のため参考値

授業におけるICTの活用方策

「導入」「展開」「まとめ」の3つのフェーズで構成される足立スタンダードの授業スタイルの中に、以下を基本として活用方策を組み込みます。末尾に（※）がついているものは、教員だけがタブレット端末を操作する項目ですが、そのほかの項目は児童・生徒もタブレット端末を操作して授業に参加する項目です。

それぞれのフェーズごとに、教員はもちろん、児童・生徒がタブレット端末を操作する場面を意図的に取り入れていくことで、デジタルとアナログを効果的に組み合わせた授業を体得していきます。

1 導入

- (1) 前時の黒板等の画像を大型提示装置に投影して振り返り（※）
- (2) デジタル教科書を使って本時の授業のねらいを確認（※）
- (3) 子どもに前時の作品等を確認させ本時のねらいをもたせる
- (4) 前時の内容をミニテストで確認
- (5) 本時で使用する資料やプリントを一斉送信

2 展開

- (1) 児童・生徒が撮影したノートや作品等を教員用端末を通して大型提示装置に投影
- (2) 調べ学習の際、子ども達が端末を活用してインターネット検索
- (3) 教員がクラスの子どもに質問や資料を一斉送信
- (4) 子どもがクラスの友だちに一斉に質問を送信
- (5) 子どもが自分の考えや意見をまとめたプレゼン資料を作成

3 まとめ

- (1) 次の授業の導入に活用するため黒板（まとめ部分）を撮影（※）
- (2) 本時の内容をミニテストで振り返り

(2) 児童・生徒の個に応じた指導

学力の定着のためには、誰にとってもわかりやすい授業を行うことは必須ですが、集団指導の中では個人差により理解度にばらつきが出ることは避けられません。現在も区学力調査の結果を活用して個々の児童・生徒の補習等を行っていますが、学習ソフトやデジタル教科書等を活用したよりきめの細かい補習の実践を図ると共に、得意な分野の先取り学習も取り入れ、児童・生徒個々の学習進度に合わせた最適な学びの実現をめざします。

☆実施内容

学習用アプリケーションやA Iを用いた教材を提供し、全児童・生徒の日常の学習や補習、先取り学習の教材として活用するほか、個々の児童・生徒の学習履歴を活用して学習が不足している学習領域を中心とした効率的な補習等につなげ、学力の底上げ（通過率の向上）を図ります。

また、Google フォーム を活用した自作ドリルなど多様なアプリケーションの活用を進めます。

成果指標	令和元年度末 現状値	令和3年度末 現状値	令和6年度末 目標
区学力調査での通過率	小 80.6%	小 84.0%	小 85%
	中 64.0%	中 67.4%	中 70%

※ 足立区学力定着に関する総合調査で目標値以上の正答があった児童（2～6年生）・生徒（全学年）の割合
小学校2教科（国語・算数）、中学校3教科（国語・数学・英語）の平均値

活動指標【令和4年度新規】	令和元年度末 現状値	令和3年度末 現状値	令和6年度末 目標
算数・数学の授業において、A Iドリルでつまずきの多かった問題の解説を行った教員の割合	小 —	小 —	小 100%
	中 —	中 —	中 100%

※ I C T活用状況アンケート（P.36）で算数・数学の授業で週1回以上取り上げて、解説を行った教員数／算数・数学の授業を行った教員数

活動指標	令和元年度末 現状値	令和3年度末 現状値	令和6年度末 目標
デジタル教科書に関する指標	小 ー	小 ー	小 ー
	中 ー	中 ー	中 ー

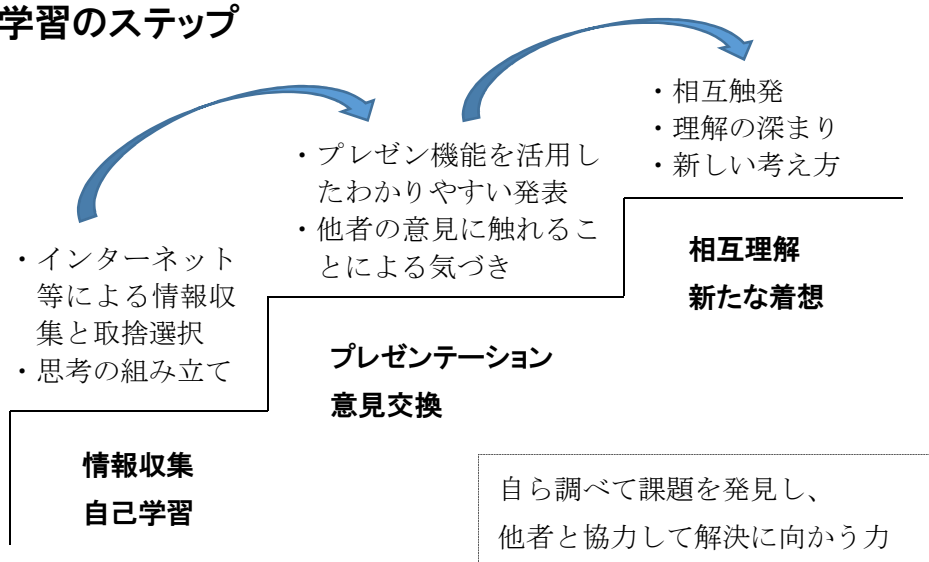
※ 国のデジタル教科書の導入方針が明確に示されていないため、現段階では、デジタル教科書に関する指標は設定しないこととする。

柱2 課題を解決していく力の育成

1 めざすべき姿

これまでの経験則が通用しなくなると予測されるこれからの社会にはばたいていく子ども達には、自ら情報を調べて課題を発見し、様々な他者と協働して解決策を見出していく力が必要です。児童・生徒がICT機器を「情報収集」や「他者とのコミュニケーション」のツールとして活用し、課題解決に向かうことのできる力を育んでいきます。

協働学習のステップ



2 現状と課題

書籍等を用いた調べ学習は盛んになってきていますが、児童・生徒一人一台のタブレット端末が整備され、デジタルベースの調べ学習の機会は徐々に増えているものの、まだ十分とは言えません。

また、足立スタンダードの浸透と共に、まずは自分で考え、その後に他者の考えに触れて相違点を学ぶという授業スタイルが定着してきていますので、そうした協働学習の場面で児童・生徒がICT機器を個人で活用できる機会をさらに増やしていく必要があります。

3 実施する施策

(1) 情報を活用した学びの推進

学校の授業の中では、個別のテーマに基づいた調べ学習が実施されているほか、足立スタンダードの中で取り組む協働学習の前段にある自己学習など、児童・生徒が自ら必要とする情報を自分で調べて考える機会は数多くあります。こうした場面で、個々の児童・生徒が自らの発想でインターネット検索を行う機会を意図的に確保し、必要な情報を自ら取得できる力を育てていきます。

☆実施内容

日常の調べ学習の機会には、図書等による調べ学習とのバランスを考慮しながら、児童・生徒が自らのタブレット端末を使ってインターネット検索を行う機会を意図的に設定し、基本的な検索に必要な機器操作方法や、適切なキーワード選択などを学ぶ機会を確保します。

成果指標	令和元年度末 現状値	令和3年度末 現状値	令和6年度末 目標
「インターネットや図書等から必要な情報を集めて整理できる」に肯定的に回答した児童・生徒の割合	小 58.2%	小 62.4%	小 70%
	中 58.0%	中 63.8%	中 70%

※ 足立区学力定着に関する総合調査で「先生が出した課題や自分で決めた課題について、インターネットを見たり本を読んだりして調べたことをまとめることができる」(小学4～6年生)、「先生から示された課題や自分で立てた課題について、インターネットや図書等から必要な情報を集め、整理することができる」(中学1～3年生)に肯定的に回答した児童・生徒の割合

活動指標【令和3年度新規】	令和元年度末 現状値	令和3年度末 現状値	令和6年度末 目標
授業(調べ学習)の中で子ども達に端末を使ってインターネット検索を行わせた教員の割合	小 —	小 56.2%	小 60%
	中 —	中 16.8%	中 30%

※ ICT活用状況アンケート(P.35)で「授業(調べ学習)の中で子ども達に端末を使ってインターネット検索を行わせた頻度」に5割以上と回答した教員(小:3年生以上のクラス担任、中:5教科担当)の割合

(2) 他者との協働による学びの推進

足立スタンダードの授業には、グループやクラスでの協働学習が組み込まれています。自らの考えを他者に伝えたり、他者の考えに触れたりするこの場面で、ICT機器をコミュニケーションツールとして活用することで、相互理解をより深める効果が期待できます。プレゼン資料作成機能を用いた思考のイメージ化、データ転送機能を用いたイメージデータの一斉共有など、ICTツールを用いたコミュニケーションを学びます。

☆実施内容

足立スタンダードに基づく日常の授業を中心に、児童・生徒がタブレット上でプレゼン資料を作ったり、イメージデータを大型提示装置や他のタブレット端末に転送して意見交換するなど、情報を即時共有する機会を意図的に設定し、コミュニケーションツールとしてのICT機器の活用方法を学ぶ機会を確保します。

成果指標	令和元年度末 現状値	令和3年度末 現状値	令和6年度末 目標
「グループ活動やペア活動で自分から積極的に発言したり、みんなで意見を出し合ったりすることができる」に肯定的に回答した児童・生徒の割合	小 73.1%	小 74.3%	小 80%
	中 61.8%	中 65.9%	中 70%

※ 足立区学力定着に関する総合調査で「授業中のグループ活動では、自分から積極的に話したり、みんなで意見を出し合ったりすることができる」(小学5～6年生)、「グループ活動やペア活動では、自分から積極的に発言したり、みんなで意見を出し合ったりすることができる」(中学1～3年生)に肯定的に回答した児童・生徒の割合

活動指標【令和3年度新規】	令和元年度末 現状値	令和3年度末 現状値	令和6年度末 目標
協働的な学習の時間にタブレット端末を活用し、児童・生徒に発表やその準備をさせることができた教員の割合	小 —	小 34.3%	小 70%
	中 —	中 27.7%	中 60%

※ ICT活用状況アンケート(P.35)で「協働的な学習の中で発表やその準備のため子ども達にプレゼン機能(Google スライドやドキュメントなど)を活用させた頻度」に5割以上と回答した教員(小:3年生以上のクラス担任、中:5教科担当)の割合

柱3 場所を選ばない学びの環境の実現

1 めざすべき姿

教育にICTをフル活用することで、学校という「場所」の制約から「学び」を解放することができます。登校してクラスで対面授業を受けることを主軸に置きながら、子ども達が自由にタブレット端末を家庭に持ち帰り、場所に制約されずに学ぶことのできるICT環境を整えていくことがゴールです。

2 現状と課題

(1) 不適切なインターネット利用や目の健康リスクへの懸念

児童・生徒が家庭にタブレット端末を持ち帰るためには、まず、家庭学習のための道具という自覚と、不適切なサイトに接続しないなど基本的な情報モラルの定着が前提となります。これらが必須条件となることは、当区の学校ICT活用促進協議会から指摘があったほか、先行している他自治体の事例からも明らかです。

また、家庭での長時間利用によって目の健康を損なう危険性もあり、節度のある正しい使い方を身につけることも必要です。

(2) 家庭の通信環境に合わせたタブレット端末の貸与

児童・生徒がタブレット端末を家庭に持ち帰り、学習用アプリケーションやリモート機能を活用するためには、インターネットによる通信を行うことが必要です。当区の約5%の児童・生徒の家庭にはWi-Fi環境がないことが明らかになっているため、各家庭の通信環境を学校が調査し、すべての児童・生徒が家庭で利用できるタブレット端末を貸与しています。

今後も引き続き、家庭ごとの通信環境に合わせたタブレット端末を貸与していくことが必要です。

3 実施する施策

(1) 児童・生徒の自覚やインターネットモラルの育成

- ① 日常の授業を通じ、I C T機器を学習用具として用いる自覚や機器の適切な使い方に関する指導を継続します。
- ② 民間I C T事業者から講師を招聘し、インターネットモラルに関する教員向けの研修等を行う機会を確保します。
- ③ インターネットの安全な利用に関する現在の取り組みを継続するほか、児童・生徒が個々にタブレット端末を利用することを前提に、発達段階に応じて子ども達に身につけさせたいインターネットモラルについて教育委員会が取りまとめ、教員研修等を実施します。

(2) 児童・生徒の目の健康の保持

文部科学省が学校関係者向けに策定した「児童生徒の健康に留意してI C Tを活用するためのガイドブック」に基づき、就学前段階から適切な活用を周知していきます。

☆実施内容

学校・民間I C T事業者・教育委員会が連携し、教員の情報モラル教育に関する指導力の向上を図り、児童・生徒が最低限身につけておくべき知識や方策を学ぶ機会を確保します。

さらに、校内だけでなく家庭でも安全に利用できるよう、児童・生徒自身が判断し、行動できる力や態度を身につけさせていきます。

成果指標【令和4年度新規】	令和元年度末 現状値	令和3年度末 現状値	令和6年度末 目標
タブレット活用のルールや生活面のマナーが身についている児童・生徒の割合	小 ー	小 ー	小 100%
	中 ー	中 ー	中 100%

※ 情報モラルに関するチェックリストで、発達段階に応じた項目をすべて達成した児童・生徒の割合

活動指標【令和4年度新規】	令和元年度末 現状値	令和3年度末 現状値	令和6年度末 目標
情報モラルについての授業やその他の取り組みを実施した教員の割合	小 ー	小 34.3%	小 100%
	中 ー	中 27.7%	中 100%

※ ICT活用状況アンケート（P.35）で、「情報モラルについての授業やその他の取り組みを実施した頻度」に前後期各1回以上実施した教員（すべてのクラス担任）の割合

令和3年度末現状値は、同じ質問項目に対し、時期・回数を問わず、授業やその他の取り組みを実施した教員の割合のため参考値

（3）家庭と学校との通信を用いたICT活用

- ① 令和5年度導入予定の「C4th Home&School」により、学校からのお便りや保護者からの欠席連絡をデジタル化します。
- ② 家庭学習への活用はまず優先度の高い「不登校児童・生徒の学びの支援【別冊】」で検討しつつ、タブレット端末の家庭への持ち帰りを進め、以下のような活用機会を増やします。
 - ・ 授業支援アプリ等を用いた宿題の配付・提出・採点など
 - ・ AIを用いたドリル教材などによる家庭学習
 - ・ リモート機能によるクラスミーティングや放課後質問タイムなど
- ③ 家庭にWi-Fi環境がある児童・生徒には、家庭のWi-Fi環境を利用してインターネット通信ができるタブレット端末を、家庭にWi-Fi環境がない児童・生徒には、Wi-Fi環境がなくてもインターネット通信ができるタブレット端末を貸与します。

☆実施内容

授業支援アプリを用いた宿題やAIを用いたドリル教材による課題など、家庭での活用機会を増やしていくとともに、家庭ごとの通信環境のばらつきを解消するため、学校を通じて児童・生徒の家庭の通信環境を調査したうえで、すべての児童・生徒が家庭で利用できるタブレット端末を貸与し、家庭への持ち帰りを進めます。

成果指標	令和元年度末 現状値	令和3年度末 現状値	令和6年度末 目標
区学力調査での通過率	小 80.6%	小 84.0%	小 85%
	中 64.0%	中 67.4%	中 70%

※ 足立区学力定着に関する総合調査で目標値以上の正答があった児童（2～6年生）・生徒（全学年）の割合
小学校2教科（国語・算数）、中学校3教科（国語・数学・英語）の平均値

活動指標【令和4年度新規】	令和元年度末 現状値	令和3年度末 現状値	令和6年度末 目標
児童・生徒にタブレット端末を 家庭に持ち帰らせ、課題に取り 組ませた教員の割合	小 —	小 —	小 100%
	中 —	中 —	中 100%

※ ICT活用状況アンケート（P.36）で、「児童・生徒用タブレット端末の家
庭への持ち帰りの頻度」に週1回以上実施した教員（すべてのクラス担任）の
割合

指標一覧

1 学力の定着

(1) わかりやすい授業づくり

成果指標	R6 年度目標
「学校の授業はわかる」に肯定的に回答した児童・生徒の割合 (小：2～6年生、中：全学年)	小 90% 中 80%
活動指標	R6 年度目標
教員用タブレット端末等を使用して授業を実施した教員の割合 (小：クラス担任、中：5教科担当 週5時間以上)	小 100% 中 100%

(2) 児童・生徒の個に応じた指導

成果指標	R6 年度目標
区学力調査での通過率 (小：2～6年生の国語・算数の平均通過率) (中：全学年の国語・数学・英語の平均通過率)	小 85% 中 70%
活動指標【令和4年度新規】	R6 年度目標
算数・数学の授業において、A I ドリルでつまずきの多かった問題を週1回以上取り上げて、解説を行った教員数／算数・数学の授業を行った教員数	小 100% 中 100%

2 課題を解決していく力の育成

(1) 情報を活用した学びの推進

成果指標	R6 年度目標
「インターネットや図書等から必要な情報を集めて整理できる」に肯定的に回答した児童・生徒の割合 (小：4～6年生、中：全学年)	小 70% 中 70%
活動指標【令和3年度新規】	R6 年度目標
授業(調べ学習)の中で子ども達に端末を使ってインターネット検索を行わせた教員の割合 (小：3年生以上のクラス担任、中：5教科担当)	小 60% 中 30%

(2) 他者との協働による学びの推進

成果指標	R6 年度目標
「グループ活動やペア活動で自分から積極的に発言したり、みんなで意見を出し合ったりすることができる」に肯定的に回答した児童・生徒の割合 (小：5～6年生、中：全学年)	小 80% 中 70%
活動指標【令和3年度新規】	R6 年度目標
協働的な学習の時間にタブレット端末を活用し、児童・生徒に発表やその準備をさせることができた教員の割合 (小：3年生以上のクラス担任、中：5教科担当)	小 70% 中 60%

3 場所を選ばない学びの実現

(1) 児童・生徒の自覚やインターネットモラルの育成

(2) 児童・生徒の目の健康の保持

成果指標【令和4年度新規】	R6 年度目標
タブレット活用のルールや生活面のマナーが身についている児童・生徒の割合（すべての小・中学生）	小 100% 中 100%

活動指標【令和4年度新規】	R6 年度目標
情報モラルについての授業やその他の取り組みを実施した教員の割合（クラス担任が前後期各1回以上実施）	小 100% 中 100%

(3) 家庭と学校との通信を用いたICT活用

成果指標	R6 年度目標
区学力調査での通過率 （小：2～6年生の国語・算数の平均通過率） （中：全学年の国語・数学・英語の平均通過率）	小 85% 中 70%

活動指標【令和4年度新規】	R6 年度目標
児童・生徒にタブレット端末を家庭に持ち帰らせ、課題に取り組ませた教員の割合 （クラス担任が週1回以上実施）	小 100% 中 100%

第 3 章 参考資料

発達段階に応じて求められる情報活用能力

※◎は必須活用、○は努力目標

ステップ1(小低学年) ステップ2(小中学年) ステップ3(小高学年) ステップ4(中学校)

知識・技能	スキル	端末の電源のオンオフができる。	◎	◎	◎	◎
		端末のログインができる。	◎	◎	◎	◎
		AIドリルにログインすることができる。	—	◎	◎	◎
		端末のカメラ機能を使って、撮影ができる。	◎	◎	◎	◎
		キーボードを使って文字入力(ローマ字)ができる。	○	◎	◎	◎
		撮影した写真や作成した資料などの保管場所が理解できている。	○	○	◎	◎
		先生からの連絡を受け取り、確認や回答をすることができる。	○	◎	◎	◎
		一つの資料を複数の友だちと共有することができる。	○	○	◎	◎
		先生や友だちと共有したいデータをクラウド上に保管することができる。	○	○	◎	◎
	モラル	ICT機器等を使う際は、守らなければならないルールがあることを知る。	◎	◎	◎	◎
		発信する情報には責任が伴うことを知る。	◎	◎	◎	◎
		情報をもたらす弊害について理解することができる。	○	◎	◎	◎
		自分たちで情報や情報機器の扱いについてのきまりを考えることができる。	○	○	◎	◎
思考力・判断力・表現力	収集・表現	検索ができる。	◎	◎	◎	◎
		課題を解決するために、アプリケーションを活用して情報を収集することができる。	○	○	○	◎
		プレゼンテーション資料を作成して、自分の考えを表現することができる。	○	○	◎	◎
		友だち同士で一つの資料を作成し、発表することができる。	○	○	○	○
	プログラミング	対象物を意図したように動かすための方法を順序立てて考えることができる。	○	○	◎	◎
学びに向かう力	意欲	ルールを守って端末を活用しようとする。	◎	◎	◎	◎
		身の回りの情報機器を積極的に利用しながら課題の解決を図ろうとする。	○	◎	◎	◎
	個別最適化	AIドリルにログインして取り組むことができる。	—	◎	◎	◎
		AIドリルにログインして、学習ログを確認することができる。	—	◎	◎	◎

足立区教育委員会作成

令和6年度までの授業モデル													
※◎は必須活用、○は努力目標				実現年度									
				令和3年	Google	Windows	令和4年	Google	Windows	令和5年から6年	Google	Windows	
導入	教員		前時の黒板等の画像を大型提示装置に投影し振り返りをする。	◎	ドライブ	カメラ	◎	ドライブ	カメラ	◎	ドライブ	カメラ	
			デジタル教科書を使って、本時の授業のねらいを確認する。	◎		デジタル教科書	◎		デジタル教科書	◎		デジタル教科書	
			本時で使用する資料やプリントを一斉送信する。	◎	ドライブ クラスルーム		◎	ドライブ クラスルーム		◎	ドライブ クラスルーム		
	低学年児童	保存・共有	子どもが前時の作品等を確認して、本時のねらいをもつ。	○		ジャストフォルダ	◎	Chrome		◎	Chrome		
児童生徒	○			ドライブ		◎	ドライブ		◎	ドライブ			
展開	教員		子どもの作品等を教員用タブレットを介して大型提示装置に投影する。	◎	ドライブ クラスルーム	カメラ	◎	ドライブ クラスルーム	カメラ	◎	ドライブ クラスルーム	カメラ	
			教員がクラスの子どもに一斉に質問や指示を出す。	◎	クラスルーム		◎	クラスルーム		◎	クラスルーム		
			デジタル教科書を使って、学習内容の定着を図る。	◎		デジタル教科書	◎		デジタル教科書	◎		デジタル教科書	
			教員がプレゼンソフトなどで作成した資料を大型提示装置に投影する。	◎	ドライブ スライド		◎	ドライブ スライド	パワーポイント	◎	ドライブ スライド	パワーポイント	
			地域や遠隔地にいる方々とインタビュー等の交流を行う。	○	MEET	Zoom	◎	MEET	Zoom	◎	MEET	Zoom	
	低学年児童	整理・比較	自分の作品や鑑賞したものを撮影して、友だちと共有することができる。	◎		カメラ	◎	カメラ		◎	カメラ		
		収集	調べ学習の際、子どもがタブレットを活用してインターネット検索をする。(音声検索)	◎		Chrome	◎	Chrome		◎	Chrome		
	児童生徒		保存・共有	自分の作品や鑑賞したものを撮影して、友だちと共有することができる。	◎	カメラ		◎	カメラ ドライブ		◎	カメラ ドライブ	
			収集	調べ学習の際、子どもがタブレットを活用してインターネット検索をする。	◎	Chrome		◎	Chrome		◎	Chrome	
			発信・伝達	子どもがクラスの友だちに一斉に質問を送る。	○	クラスルーム		◎	クラスルーム フォーム スプレッドシート		◎	クラスルーム フォーム スプレッドシート	
			発信・伝達	子どもが自分の考えや意見をまとめたプレゼン資料を作る。	○	スライド		◎	スライド		◎	スライド	
			発信・伝達	子どもが友だちと協力して、画像やアニメーションが入ったプレゼン資料をつくる。	○	スライド		◎	スライド		◎	スライド	
			発信・伝達	子どもたちが友だちと協力して一つの資料を同時に作成する。	○	スライド・ドキュメント		◎	ドキュメント・スライド		◎	ドキュメント・フォーム	
			発信・伝達	子どもが学級や学年をまたいで、意見交換等を行う。	○	MEET	Zoom	○	MEET	Zoom	○	MEET	Zoom
	まとめ	教員	次の時間の導入に活用するために、黒板(特にまとめ)を撮影する。	◎	ドライブ	カメラ	◎	ドライブ	カメラ	◎	ドライブ	カメラ	
低学年児童		保存共有	子どもが本時で作成した作品等を保存することができる。	○	ドライブ	ジャストフォルダ	◎	ドライブ ドライブ	◎	ドライブ ドライブ			
児童生徒													
リ サ ー ス シ ス テム	教員		授業のなかで、学習用アプリケーション(自作のオンラインドリル)を活用して、学習内容の定着を図る。	◎	ドライブ フォーム		◎	ドライブ フォーム	AIDリル	◎	ドライブ フォーム	AIDリル	
特別活動等	教員		教員が資料やアンケート等を子どもたちに一斉に送る。	◎	クラスルーム		◎	クラスルーム・フォーム		◎	クラスルーム・フォーム		
			教員が持ち物やスケジュール等の連絡をする。	◎	クラスルーム		◎	クラスルーム		◎	クラスルーム		
			地域や遠隔地にいる方々とインタビュー等の交流を行う。	○	MEET	Zoom	◎	MEET	Zoom	◎	MEET	Zoom	
	低学年児童	収集	調べ学習の際、子どもがタブレットを活用してインターネット検索をする。(音声検索)	◎	Chrome		◎	Chrome		◎	Chrome		
	児童生徒		発信・伝達	子どもが自分の考えや意見をまとめたプレゼン資料を作る。	○	スライド		◎	スライド		◎	スライド	
			発信・伝達	子どもが友だちと協力して、画像やアニメーションが入ったプレゼン資料をつくる。	○	スライド		◎	スライド		◎	スライド	
			発信・伝達	子どもが学級やクラブ等の友だちに一斉に質問や資料を送る。	○	クラスルーム		◎	クラスルーム		◎	クラスルーム	
			発信・伝達	調べ学習の際、子どもたちがタブレットを活用してインターネット検索をする。	◎	Chrome		◎	Chrome		◎	Chrome	

使用するアプリケーションの例

導入

前時の黒板等の画像を大型提示装置に投影し、振り返りをする。



デジタル教科書を使って、本時の授業のねらいを確認する。

子どもに前時の作品等を確認させ、本時のねらいをもたせる。



前時の内容をミニテストで確認をする。



本時で使用する資料やプリントを一齐送信する。



ねらいを黒板に書いて、子どもたちに授業の見通しをもたせる。

展開

児童・生徒が撮影したノートや作品等を教員用端末を通して大型提示装置に投影する。



調べ学習の際、子どもたちが端末を活用してインターネット検索をする。

教員がクラスの子どもに質問や資料等を一齐に送る。



子どもがクラスの友だちに一齐に質問を送る。



子どもが自分の考えや意見をまとめたプレゼン資料を作る。



子どもたちの考え等を黒板に書く。

まとめ

授業のまとめを黒板に書く。

次の時間の導入に活用するために、黒板(特にまとめ)を撮影する。



本時の内容をミニテストで振り返る。



【アプリケーションについて】

	Google ドライブ	様々なデータを保存するクラウド上の倉庫としてのアプリ
	Google クラスルーム	児童や生徒たちに連絡をしたり、資料を送付したりするなどのプラットフォーム機能をもつアプリ
	Google フォーム	問題やアンケートなどが作れるアプリ
	Google スプレッドシート	集計表計算、グラフなどが作れるアプリ
	Google スライド	プレゼンテーションが作れるアプリ
	A I ドリル	オンラインでドリルに取り組める学習システム

ICT活用状況アンケート項目

※質問項目1～11については、ICT機器活用に関する基本的な項目であることから、今後も継続して検証を行う予定。

		質問項目	選択肢						
1	教員の不安感	授業準備に関する負担が増す。	非常にあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない			
2		児童・生徒用タブレット端末を用いた授業の組み立てが分からない。	非常にあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない			
3		ICT機器の操作が分からず、操作ミスが起きる。	非常にあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない			
4		ICT支援員との連携に不安がある、または効果的な連携が難しいように思う。	非常にあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない			
「非常にあてはまる」と答えた方は、どのような点に不安を感じているかご記入ください。									
5		【小学校のみ】ICT機器を用いたプログラミング学習が苦手である。	非常にあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない			
6	【小学校のみ】ICT機器を用いないプログラミング学習が苦手である。	非常にあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない				
7	効率化	ICT機器を活用することで、授業準備等において効率化を図ることができた。	非常にあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない			
8	活動指標	小学校は担任する学級または担当する教科において、中学校は担当する教科において、教員用タブレット端末や大型ディスプレイを使用して授業を実施した頻度。 「週1時間未満実施した」と答えた方は、理由をご記入ください。	週5時間以上実施した	週3時間以上実施した	週1時間以上実施した	週1時間未満実施した			
9		【小学校のみ】担任する学級または担当する教科において、児童・生徒用タブレット端末を使用して授業を実施した頻度 「週1回未満実施した」と答えた方は、理由をご記入ください。	週5回以上実施した	週3回以上実施した	週2回以上実施した	週1回実施した	週1回未満実施した		
		【中学校のみ】担当する教科において、児童・生徒用タブレット端末を使用して授業を実施した頻度 「週1時間未満実施した」と答えた方は、理由をご記入ください。	ほぼ毎日実施した	週3時間以上実施した	週1時間以上実施した	週1時間未満実施した			
		10	小学校は5～6年生の担任する学級において、中学校は技術を担当する全学級において、教員用または児童・生徒用タブレット端末を使用してプログラミング教育の授業を実施した頻度	該当学年・教科ではない	年間2時間以上	年間1時間以上2時間未満	年間1時間未満	実施できなかった	
11		モラル情報	情報モラルについての授業やその他の取組（例えば、SNS安全教室、目の健康の保持など）を実施した。（複数選択可）	前期に1回以上実施した	前期に1回実施した	後期に1回以上実施した	後期に1回実施した	実施できなかった	
	導入	授業の導入時におけるICT機器の活用について							
12		1 前時の黒板等の画像を大型提示装置に投影し、振り返りを実施した頻度 （実施したおおよその授業時間数／総授業時間数）	9割以上	7割以上	5割以上7割未満	3割以上5割未満	3割未満	実施できなかった	
13		2 指導者用デジタル教科書を活用して、本時の授業のねらいを確認した頻度 （実施したおおよその授業時間数／総授業時間数）	デジタル教科書導入なし	9割以上	7割以上	5割以上7割未満	3割以上5割未満	3割未満	実施できなかった
14		3 本時で使用する資料等（発問含む）を一斉送信した頻度 （実施したおおよその授業時間数／総授業時間数） 3について「3割未満」・「実施できなかった」と答えた方はその理由をご記入ください。	9割以上	7割以上	5割以上7割未満	3割以上5割未満	3割未満	実施できなかった	
	展開	授業の展開時におけるICT機器の活用について							
15		1 子どもの作品等を教員用タブレットを介して大型提示装置に投影した頻度 （実施したおおよその授業時間数／総授業時間数）	9割以上	7割以上	5割以上7割未満	3割以上5割未満	3割未満	実施できなかった	
		1-1 1を行うことによって、子どもたちは考えを共有することができた。	非常にあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない			
16		2 授業（調べ学習）の中で子ども達に端末を使ってインターネット検索を行わせた頻度 （実施したおおよその授業時間数／総授業時間数）	9割以上	7割以上	5割以上7割未満	3割以上5割未満	3割未満	実施できなかった	
		2について「3割未満」・「実施できなかった」と答えた方はその理由をご記入ください。							
17		2-1 子どもたちは学年に応じた検索方法で、スムーズに調査活動を行うことができた。	非常にあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない			
		3 協働的な学習の中で発表やその準備のため子ども達にプレゼン機能（Googleスライドやドキュメントなど）を活用させた頻度 （実施したおおよその授業時間数／総授業時間数）	9割以上	7割以上	5割以上7割未満	3割以上5割未満	3割未満	実施できなかった	
18		3-1 3を行うことで、子どもたちは効率的に協働的な学習を行うことができた。	非常にあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない			
	4 指導者用デジタル教科書を授業の展開時で活用した頻度（活用したおおよその授業時間数／総授業時間数）	デジタル教科書導入なし	9割以上	7割以上	5割以上7割未満	3割以上5割未満	3割未満	実施できなかった	
		4-1 4を行うことで子どもたちは内容を理解することができた。	非常にあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない			

		質問項目	選択肢					
19	まとめ	授業のまとめにおけるICT機器の活用について						
		1 次時に備えて、黒板(特にまとめ)や子どもの作品等を撮影した頻度 (実施したおおよその授業時間数／総授業時間数)	9割以上	7割以上	5割以上7割未満	3割以上5割未満	3割未満	実施できなかった
		1について「3割未満」・「実施できなかった」と答えた方はその理由をご記入ください。						
20	学習アプリについて	1 算数・数学の授業においてAIドリルでつまずきの多かった問題の解説を行った頻度	担当教科ではない	週3回以上実施した	週1回以上3回未満実施した	週1回未満実施した	実施できなかった	
		2 授業でAIドリル以外のアプリケーション(Googleフォームを活用した自作のドリルなど)を活用した頻度 (実施したおおよその授業時間数／総授業時間数)	9割以上	7割以上	5割以上7割未満	3割以上5割未満	3割未満	実施できなかった
		3 1や2を行うことで、子どもたちは授業内容を定着させることができた。	非常にあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない		
21	持ち帰りについて	【クラス担任のみの質問】 1 児童・生徒用タブレット端末の家庭への持ち帰りの頻度	毎日	週2～3回	週1回	月2回程度	月1回程度	持ち帰りはしていない
		1について「持ち帰りをしている」と答えた方はその理由を選択してください。(複数選択可)	緊急対応に備えて	機器に慣れさせるため	学校のルールに定められている	課題に取り組ませるため	連絡ツールとして	その他
		「課題に取り組ませるため」と答えた方は、取り組ませた課題は何ですか。(複数選択可)	AIドリル	調べ学習	レポート作成	タイピング練習	Googleを活用した教科の課題	
		「その他」と答えた方は、理由をご記入ください。						
		1について「持ち帰りはしていない」と答えた方はその理由をご記入ください。						